

終の住処の札幌へ

札幌市医師会
愛全病院診療部

土肥 修司

羊蹄や樽前の山々にまだ雪が残っている3月31日、私は札幌に引っ越した。8年前、岐阜から諏訪・東京・青森を経て室蘭と来た時は、快晴の寒い日で心が躍ったことも思い起こされた。冬に葉を落とした木立はもう少しすると新緑をつけ始め、5月半ばになると満開の葉をつける。そして雪を頂いた山々が一層輝きを増す。

札幌への引っ越しには、医師たちの札幌への一極集中を嘆いてきた身だけに、多少の後ろめたさがあった。誰もが必ず3つの1つをいう。まず、「やっぱりね」と、次に「便利でしょう」。そして「マンションですか」と。

終の住処をどこにするか、これは老人でなくとも問題だが、残された時間の少ない者には重大だ。私の場合は、この室蘭から札幌への引っ越しは医師になってから21回目（6ヵ月以上住んだ地）で、慣れているわけではないのだが、それなりの計画があった。1期4年間で引き受けた自治体病院の事業管理者も、2期目は2年までと大学の学長任期の6年間に拘わったが、後任者に恵まれず7年が過ぎ、然したる貢献もなく8年目となった。自治体病院の事業者の仕事の重要性も認識でき、北海道の医療への貢献という初期の目的を達した後は、後3年は臨床医として学び直し、老後の再出発をしたいという希望であった。

この場合、何を・どこで・どのようにするか、というのが問題なのだが、私の場合は、現状の収まりをつけるという合目的な手段でもあった。医師確保の困難さや医師の専門診療志向の現状を非難する訳ではないが、自身の年齢と、総合診療、慢性期医療などは今の時代の要請と、そこに焦点を定めたのだ。

次はどこで働くか、場所である。病院選びは重要だ。アメリカでの経験を除けば、若い医師時代に最も学んだのは赤十字病院であった。地域の赤十字病院は医師確保等に苦難を強いられているに違いない。まず長野県のホームページで検索して、7つの赤十字病院から、長野・諏訪の両大病院は以前訪問したことがあり対象から外し、上田、飯田、飯山と市の所在を間違えたりもしたが、長野県内の千曲川沿いにある赤十字病院と決めて、面接にも参上した。

そして高齢者には最も重要なのは、どのような過すかだ。当該院長からは、地域包括ケア病棟や療養病棟の入院患者の対応、訪問診療、総合診療的な外来などを担当と、30年間も地域医療に貢献してきた

院長は常勤嘱託医として、力を入れている療養病棟や訪問診療に助力してほしい、という要請があった。

3mに及ぶ豪雪地帯の往診、心身ともにタフさを身に付けている住民との交流、四季折々の自然の楽しみ、休日には千曲川周辺原風景をのんびりと列車で旅する姿も浮かんだ。刻々変化する現実よりも悠然として変わらないものに、心が動かされてきたのである。わずか10分間だが新幹線通勤もできる。大学時代からだらだらと続けてきた自分の生活パターンを完全に替えることも可能だ。私は有頂天になって、勉強を開始し心の準備もした。

この8年間、医師の確保では辛苦をなめてきた私だが、全てが希望に合致した環境で収まりをつけられる職、今風にいえば私自身の働き方改革の最後のビジョンのはずであった。だが近未来には何かが起こる。私の企ては2人の娘からの猛反対を受けた。

娘たち曰く「8年間も臨床を離れ、新しい病院で老害をばらまいてどうするつもり。病院だって迷惑だってこと分らないの」「地域医療や訪問診療をなめているとしか思えない」「今の若い医師が嫌がっているのは、地域に何の実績もない父（私）のような医師が、今までの診療スタイルや経験を押しつけ、挙句の果ては、処方などを勝手に変えて当然としている（当院でも若い医師から訴えがあった。自分の時代の習慣から脱却できない姿勢）、など問題は多い」「それも、私（娘）と同じ医療圏なので、いろいろ聞くに堪えない話も耳に入ってくるでしょうから、私としては本当に迷惑」などに加えて、さらに言うには「長野観光を休日の楽しみになどと軽い気持ちで赴任し、2～3年して去っていく。残された患者はどうなるの」「貢献したいと思うなら、長野より医師不足が深刻な北海道でやったら」と言う。これも至極もつともなことだ。次女からは「大学定年後は母のことを第一に考える、と言ったよね。室蘭と札幌の二重生活で大変な思いをしているよ。自分たちの歳を考えてよ」と言われ、妻には「老いては子に従えだよ」と諭された。

こうして私の心躍る計画は、病院長に迷惑をかけて夢で終わった。だが地域医療の継続には、私のような者にも機会が提供され、その働きが期待されていると実感した。

「75歳までは働け」が国の方針になり、その現役年代に居ることは認識しているのだが、終の住処をどこにするかは、言われていない。3年前（2015年6月）「日本創成会議」から、道内では室蘭市は医療と介護施設では最も余裕のある地域との報告があったが、人口減少に歯止めがかかったという話は聞かない。こうして都市部に老人も集まり、札幌一極集中は留まることを知らない。この医療圏も確実に高齢化する。